



Quick Start



このマニュアルは 操作と設定に 最低限の知っておくべき事項が書かれています。

どうぞ 操作しながらお読みください。

April 2024

目次

1. はじめに.....	2
その他のダウンロードできる資料.....	3
2. 梱包されているもの.....	4
3. 配線しましょう.....	5
3.1 ACの配線.....	5
3.2 PCモニターとキーボードの接続.....	5
3.3 スピーカーへの結線.....	5
3.4 入力側の結線.....	6
4. ネットワークの配線と設定.....	7
4.1 2種類のGUI.....	7
4.2 ネットワークの配線と設定.....	8
4.3 DMCP (D-Mon Control Panel) の表示.....	14
5. SPEAKER SETS の作成.....	17
5.1 STUDIO SETUP ページを開く.....	17
5.2 別のスピーカーセットを加える.....	19
5.3 Optimize しないスピーカーセットを加える.....	19
5.4 その他の設定.....	21
5.5 Preset への 保存.....	24
6. Calibration	25
6.1 配線 と 配線チェック.....	25
6.2 3Dマイク.....	26
6.3 Calibration.....	27
7. ソースの設定.....	30
8. 試聴.....	33
9. Preset への保存.....	33
10. 電源を落とす.....	34
11. FAQ	35
11.1 Analog Input 1/2 を Source に使用したい.....	35

1. はじめに

この度はDMONを導入いただき、誠に有難うございます。

DMONは、スタジオ モニターの最適化を行う **Optimizer** 機能を持ったモニターコントローラーです。
また、演奏者へのCue送りやトークバック/リッスンバック機能も備えています。

このマニュアルでは、アナログ入力とアナログ出力を使用してOptimizerのセットアップを行う例を取り上げています。ご自身の使用環境に置き換えてお読みください。

DMONの詳細につきましては、別途 [User Manual\(和文\)](#)をご用意しております。
以下のリンクよりダウンロードしてご覧ください。

なお、ダウンロードには次のユーザーネームとパスワードが必要となります。

DMON ユーザーマニュアル ダウンロードリンク	
ダウンロードリンク	http://www.dspj.co.jp/dl/trinnov/DMon_Japanese_Manual_V4.2.2.pdf
	
ユーザーネーム	trinnovuser
パスワード	laremote

その他のダウンロードできる資料

Trinnov App	https://www.trinnov.com/en/resources/trinnov-app/ 
Trinnov App マニュアル(和文)	http://www.dspj.co.jp/~manuals/Trinnov/Trinnov_APP.pdf 
LaRemote アップデート マニュアル(和文)	http://www.dspj.co.jp/~manuals/Trinnov/Trinnov_LaRemote_Update-j.pdf 
LaRemote マニュアル(和文)	http://www.dspj.co.jp/~manuals/Trinnov/LaRemote_UserManual-J.pdf 

2. 梱包されているもの

箱に同梱されているものです。欠品が無いことを確かめください。

1	DMON本体	
2	ACケーブル	
3	3Dマイク+専用ケーブル * option	
3	DB25-XLR11C x4 ブレイクアウト ケーブル * option	
4	タッチパッド付きキーボード * option	
5	MPIOケーブル * option	
6	La Remote コントローラー * option	 + USB A-B ケーブル付属

* option の製品は、本体とは別途で注文する必要があります。

3. 配線しましょう



3.1 ACの配線

- ACケーブルをユニット背面(上図1)に接続してください。
- 表パネルの電源スイッチAがOFFの位置になっていることを確かめてから背面の電源スイッチ2をONのポジションにしてください。

3.2 PCモニターとキーボードの接続

- PCモニターを 背面3からVGAまたはHDMIで接続してください。
- キーボード、マウス をB または 4 のUSBポートに接続してください(接続しないと電源ON時にビープ音が複数回鳴る可能性があります)。
- アナログ入力を DB25 を使用して 8 に接続してください。
- アナログ出力を XLR で 9 から接続してください。[後述する操作例](#)では、1/2と3/4に最適化するスピーカーを、5/6に最適化しないスピーカーを接続する設定例を紹介しています。
- スタジオ内のネットワーク(LAN)に 5 から RJ45(LANケーブル::CAT5e以上)で接続してください。

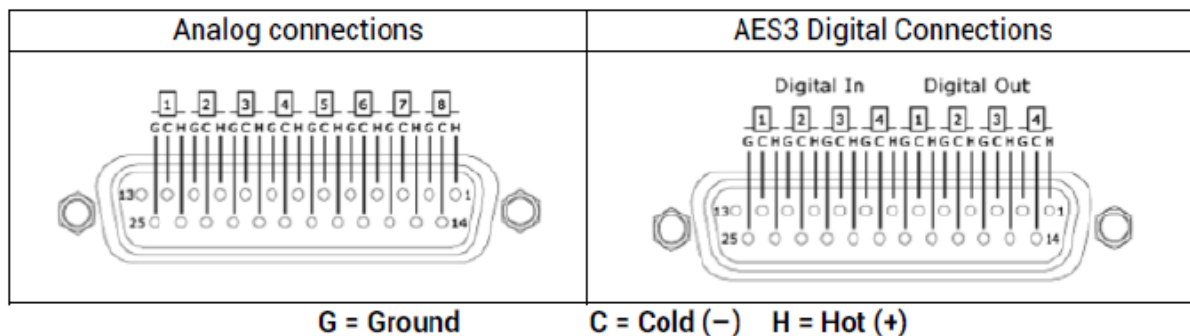
3.3 スピーカーへの結線

- スピーカー(パワーアンプ)へは、背面パネル 9 のXLRから配線してください。
- MPIOケーブルは 12 に配線します。このケーブルには GPIOやヘッドフォン、Talkbackマイク、Listenbackマイクなどを接続します(詳しくは [User Manual](#)をご覧ください。)

3.4 入力側の結線

- 入力は、この例では、アナログを使用します。背面パネル 8 に DB25-XLR ブレイクアウト ケーブル または Tascam フォーマットの DB25 アナログ入力ケーブルを使用して配線してください。

- 3Dマイクの出力を **XLR #1/2/3/4** に接続してください。
※注意: Analog In 1 (Talkback) / 2 (Listenback) には、iCon用に +39v が出力されています。
- ミキサー出力を **DB25の 5/6ch** に、別バージョンのミキサー出力を **DB25の 7/8ch** に接続してください(Tascam フォーマットの DB25 アナログ入力ケーブルが必要です)。



注意: **Tascam** フォーマットの **DB25** について

Trinnovプロセッサが装備しているオーディオ入出力用DB25は、アナログ/AESとも Tascam フォーマットのピン配列に準拠しています(止めネジはインチです)。

4. ネットワークの配線と設定

DMONは、全ての操作をネットワーク上のPCの Webブラウザ(または Trinnov App)で行います。そのため、DMONはネットワークに接続しなければなりません。ネットワークの設定方法は [4.2](#) をご覧ください。

4.1 2種類のGUI

DMONには2種類の操作画面(GUI)があります。

OPCP (Optimizer & Processor Control Panel)

Optimizer を設定することが主な役目のGUIで、ネットワークの設定も行います。

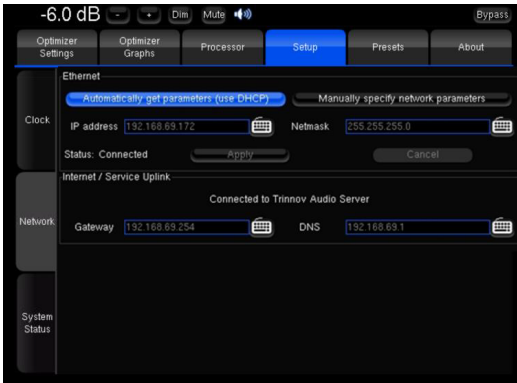
本体グラフィックポートに接続したモニターでネットワークを設定後、ネットワーク機器の Web GUI から操作を行うことができます。

DMCP (DMon Control Panel)

スタジオの実際のオペレーションに使用するGUIです。常に Web ブラウザにGUIを表示させて操作を行います。

そのため、DMONはネットワーク(LAN)に接続することが必須です。

ネットワークへの接続方法は、[次の章](#)で説明しています。

OPCP	DMCP
本体に接続したPCモニターで見ることができるのは、OPCP のみです。	実際のオペレーションで使用することの多い DMCP は、ネットワーク経由でブラウザからのみ見ることができます。
	

4.2 ネットワークの配線と設定

DMON を設置するスタジオに環境によりネットワーク環境は異なりますが、ここでは 2つのネットワーク形式を例として解説します。

- [ルーター\(ハブ\)と接続する場合](#)
- [PC/mac と DMON を直接LANケーブルで接続する場合](#)

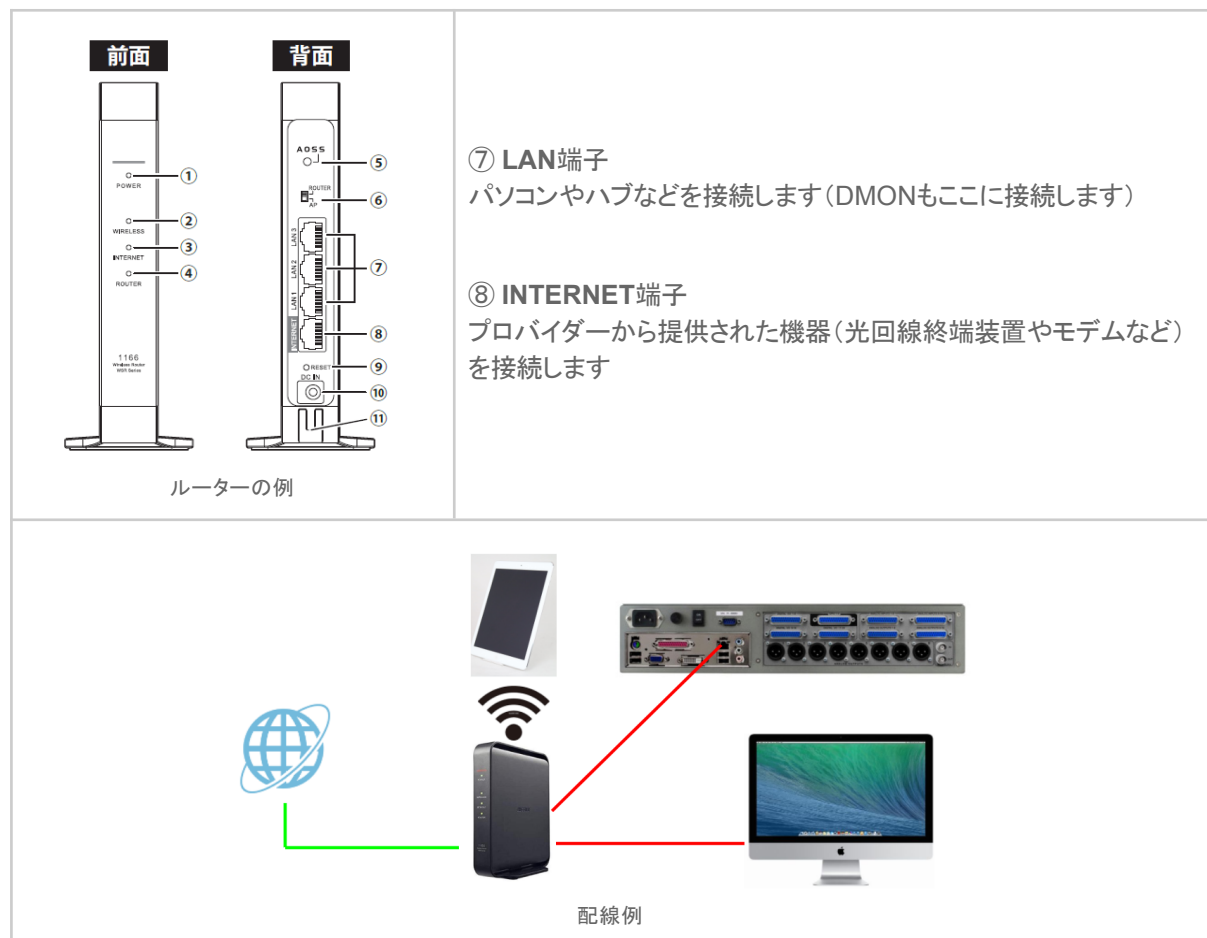
使用環境に合った説明をお読みください。

A. ルーター(ハブ)と接続する場合

コンピューターでインターネットを使用している場合、コンピューターのLANポートからルーターと呼ばれる機器に接続されているはずです。

下図の様なルーターには、インターネット回線から来ているケーブルとPC(コンピューター)へ接続されているケーブルが接続されています。

PC(コンピューター)へ接続されている側には、複数のポートが用意されています。Trinnovプロセッサからのネットワークケーブルを空いているポートに接続してください。



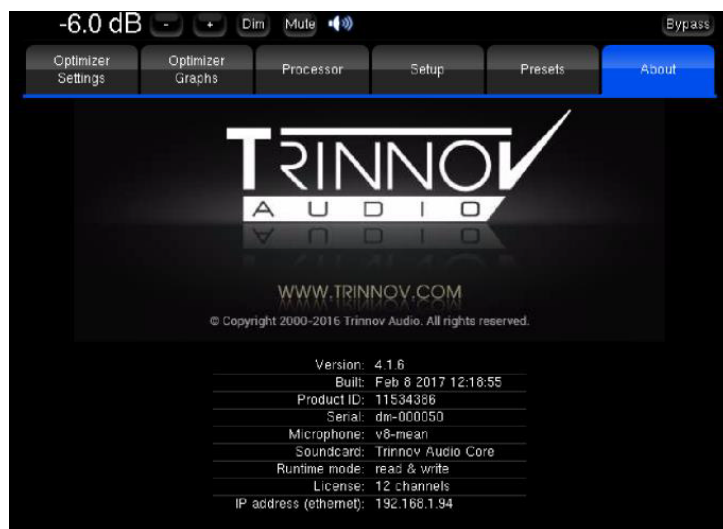
この方法は最も一般的で汎用性が高く、ネットワークの設定も簡単です。同じハブ(スイッチ)を使用しているネットワーク機器(タブレットやスマートフォンなど)から、DMONの操作が行える他、DMONソフトウェアのアップデートやリモートをインターネット経由で行うことができます。

PCモニターとキーボード+マウス、ハブ(スイッチ)からのLANケーブルを接続したら、以下の手順でDMONの電源を入れます。

注意: 念のためオーディオ モニターの電源はまだ入れないで下さい。

- | | |
|---|---|
| 1 |  <p>背面の電源コネクタにACケーブル(1)をつなぎ、電源スイッチ(2)をONにしてください。</p> |
| 2 | <p>USBポートに、USBメモリーやHDD、DVDなどのUSB周辺機器が接続されていないことを確かめて下さい。USBポートにはキーボード & マウスのみを接続してください。</p> |
| 3 |  <p>フロントパネル左側にある電源スイッチ(A)をONにしてください。</p> |
| 4 | <p>起動が終了すると、DMONに接続したPCモニターに OPCP(Optimizer & Processor Control Panel) と呼ばれる画面が表示されます。マウスを動かすと赤いポインターが動くことを確認してください。</p> |

OPCPは、画面上部の左から右に **[Optimizer Settings]** **[Optimizer Graphs]** **[Processor]** **[Setup]** **[Preset]** **[About]** のタブを持ったGUI で、DMONの基本的な動作設定を行います。



* 起動時にどの **OPCP** タブが開かれるかは前回の終了時により異なります。

- 5 **OPCP** が表示されたら、**Setup** タブをクリックし、画面左側に上下に並ぶタブで **Network** のページを開いて下さい。



- 6 スイッチの設定が正しく行われている場合、図赤枠の様にDHCPサーバーから DMON に与えられた **IPアドレス** が表示されます。この **IPアドレス** は **DMCP** へのアクセスに必要ですので、メモに書き留めておいてください。
- 7 スイッチの設定が正しく行われていてインターネットに接続されている場合、上図緑枠の様に **Connected to Trinnov Audio Server** と表示されます。
- 8 Mac をホストとして使用するのであれば、**Trinnov App** をダウンロードして Mac にインストールしてください。

Mac上でTrinnov Appを起動すると、ネットワーク上の **DMON** を自動検出してくれます。検出された **DMON** のアイコンをダブルクリックすると標準ブラウザが起動し、**DMCP**にアクセスすることができます。詳しい使い方は [Trinnov App のマニュアル](#) をご覧ください。

* Mac, Windows とともに、使用するブラウザは [Google Chrome](#) を推奨しています。

B. PC/mac と DMON を直接LANケーブルで接続する場合

ハブ(スイッチ)が無い場合は、PCホスト(PC/mac)と DMON を直接LANケーブルで接続し、双方に静的な IP アドレスを設定してホストからDMONにアクセスします。

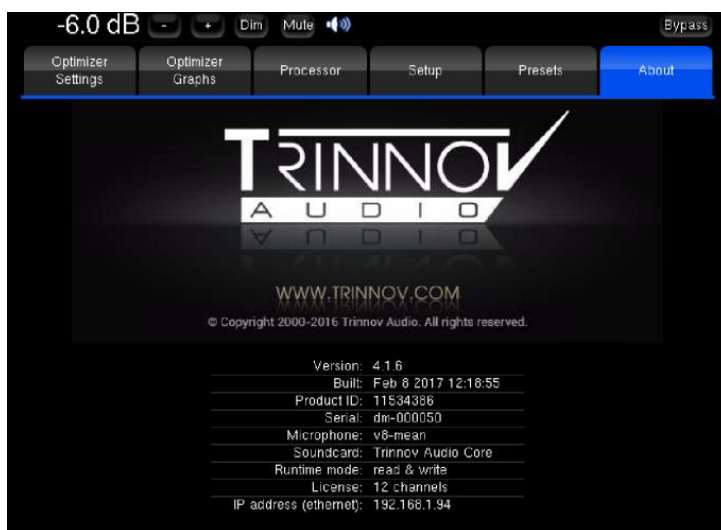


PCモニターとキーボード+マウス, LANケーブル を接続したら、以下の手順でDMONの電源を入れます。

注意: 念のためオーディオ モニターの電源はまだ入れないで下さい。

1		背面の電源コネクタにACケーブル(1)をつなぎ、電源スイッチ(2)をONにして下さい。
2		USBポートに、USBメモリーやHDD, DVDなどのUSB周辺機器が接続されていないことを確かめて下さい。USBポートにはキーボード & マウスのみを接続してください。
3		フロントパネル左側にある電源スイッチ(A)をONにしてください。
4		起動が終了すると、DMONに接続したPCモニターに OPCP (Optimizer & Processor Control Panel) と呼ばれる画面が表示されます。マウスを動かすと赤いポインターが動くことを確認してください。

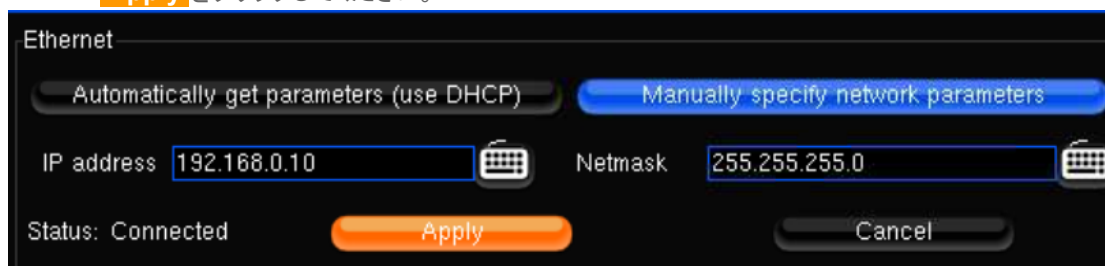
OPCPは、画面上部の左から右に **[Optimizer Settings] [Optimizer Graohs] [Processor] [Setup] [Preset] [About]** のタブを持ったGUI で、DMONの基本的な動作設定を行います。



* 起動時にどの OPCP タブが開かれるかは前回の終了時により異なります。

5 **OPCP** が表示されたら、**Setup** タブをクリックし、画面左側に上下に並ぶタブで **Network** のページを開いて下さい。

- 6
- Ethernet 欄の最も右上にある **Manually specify network parameters** を選択し
 - **IP address** 欄に適当なIPアドレス(この例では **192.168.0.10**)と
 - **Netmask** 欄に適当な値(この例では **255.255.255.0**)を入力し、
 - **Apply** をクリックしてください。



7 次にホスト側の PC/mac に静的な IP アドレスを設定してください(**192.168.0.11 / 255.255.255.0** など)。IPの設定方法は、[Windows](#)、[Mac](#) をご覧ください。

※ ネットワークアドレス は同じIPアドレスを複数の機器が持つことはできません。最後のオクテット(**192.168.0.XXX** の **XXX** 部分)に上で設定したホストPCの IP と異なる数字を入れて下さい。

※ “Netmask” には、上記 1 で設定したサブネットマスクと同じ数値を入れて下さい(例: **255.255.255.0**)。

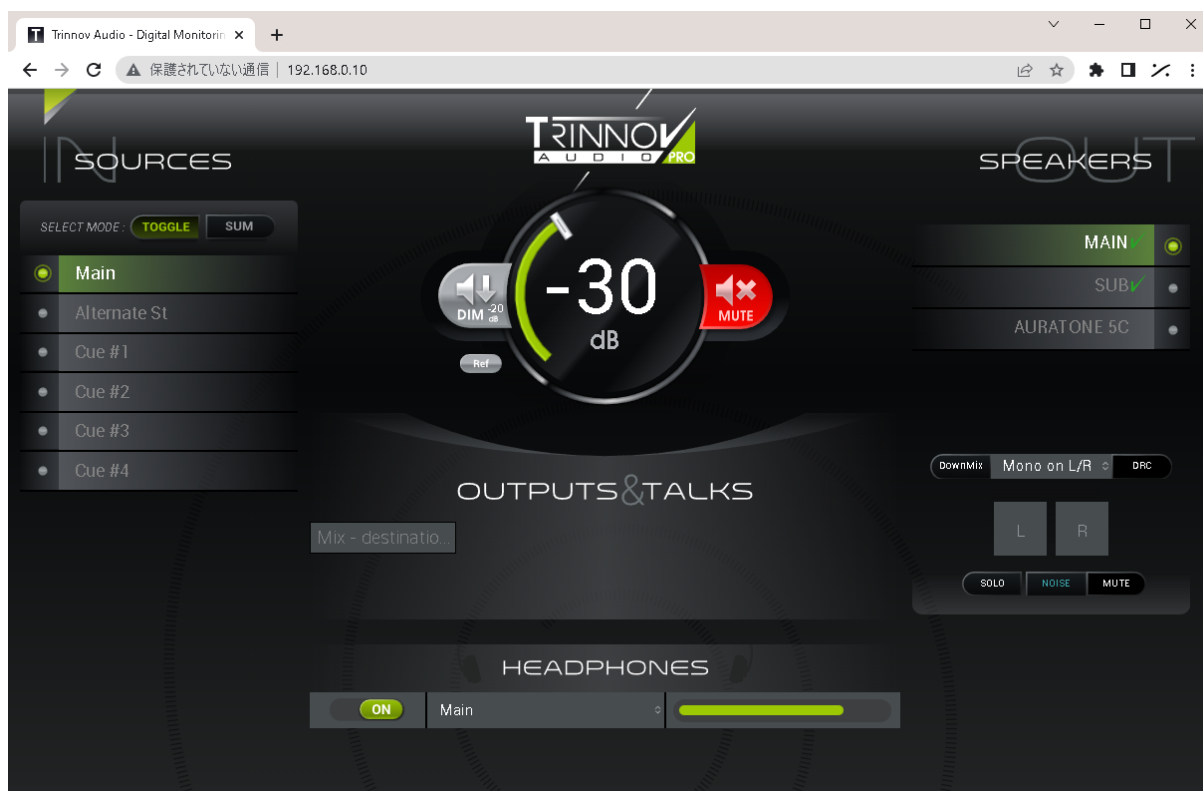
8 Mac をホストとして使用するのであれば、[Trinnov App](#) をダウンロードして Mac にインストールしてください。

Mac上でTrinnov Appを起動すると、ネットワーク上の **DMON** を自動検出してくれます。検出された **DMON**のアイコンをダブルクリックすると標準ブラウザが起動し、**DMCP**にアクセスすることができます。詳しい使い方は [Trinnov App のマニュアル](#) をご覧ください。

* Mac, Windows とともに、使用するブラウザは [Google Chrome](#) を推奨しています。

4.3 DMCP (D-Mon Control Panel) の表示

- DMONのメインGUIである **DMCP** を表示させるには、Trinnov App を使用してホスト (DMONから開くことができます。
- または PC/Mac (またはネットワークデバイス) のブラウザで、**DMON の IP** をブラウザの検索窓に入力してエンターキーを押します (下図はDMONのIPが 192.168.0.10に設定されている場合の例です)。

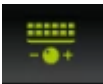
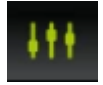
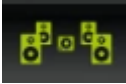
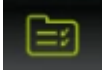


- ブラウザ画面の一番下には、設定用のアイコンが並んでいます。



これをクリックすると、それぞれ特有の設定ができるページを開きます。

それぞれのページの詳細については、[DMON User Manual](#) をご覧ください。

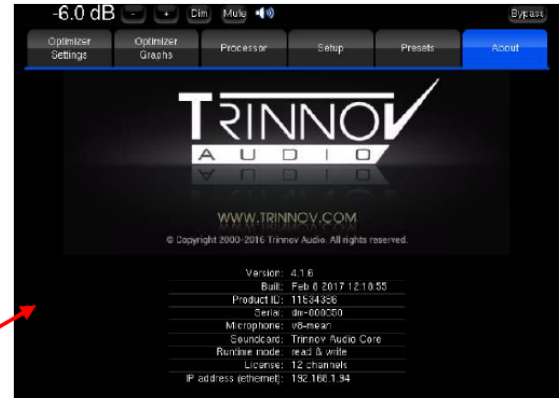
アイコン	名称	用途
	CONTROLLER	メインのコントロール画面を表示します
	SESSION ROUTING	SOURCE の物理入力の設定や MIX出力などの物理出力の設定を行います
	MONITORING MIXER	MIX 出力のソースを設定します
	SESSION SETTINGS	各 SOURCE や MIX , OUTPUT のレベル設定を行います またリモートコントロールのオプション設定を行います
	STUDIO SETUP	スピーカーの物理出力やモニターフォーマットを設定します このページには上部にはタブがあり、下記の各サブページを開くことができます
Speaker sets Bass management Inputs & Outputs Audio clock Options/Levels Remotes Updates/About それぞれのページの詳細は User Manual をご覧ください		
	La Remote	ブラウザの別のタブ(または別ウインドウ)が開き、La Remote のボタンの設定(プログラミング)が行えます
	SESSIONS SNAPSHOT / STUDIOS PRESETS	Snapshot や Preset の管理を行います
	モデルナンバー	OPCP をブラウザの別タブで表示します

- アイコンの一番右にある、モデルナンバーのアイコン部分  をクリックすると(タブブラウザを使用している場合は)新しいタブが開き、**OPCP** がブラウザで表示されます。
- ブラウザのタブを切り替えてご覧ください。
- Trinnov App で **DMCP** を見ている場合、同様の操作を行うと、別ウインドウで **OPCP** が開きます。

D-Mon Control Panel (DMCP)



Optimizer & Processor Control Panel (OPCP)



これで GUI へのアクセスが完了しました。

[次の章](#)からは オーディオ入出力の設定と調整を行います。

DMON は DAW / Miing Console -> DMON -> Speaker の順に接続されているはずです。

- [次の章](#)では まず DMON -> Speaker の接続設定を行います。
- その後、設定を [PRESET に保存](#)して、
- [音響調整](#)を行った後、
- さらに [DAW / Miing Console -> DMON の接続設定](#)を行います。
- 最終的に出来上がったものを [PRESET に保存](#)します。

5. SPEAKER SETS の作成

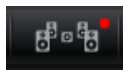
DMCP の最も下の部分をご覧ください。



のアイコンが並んでいます。

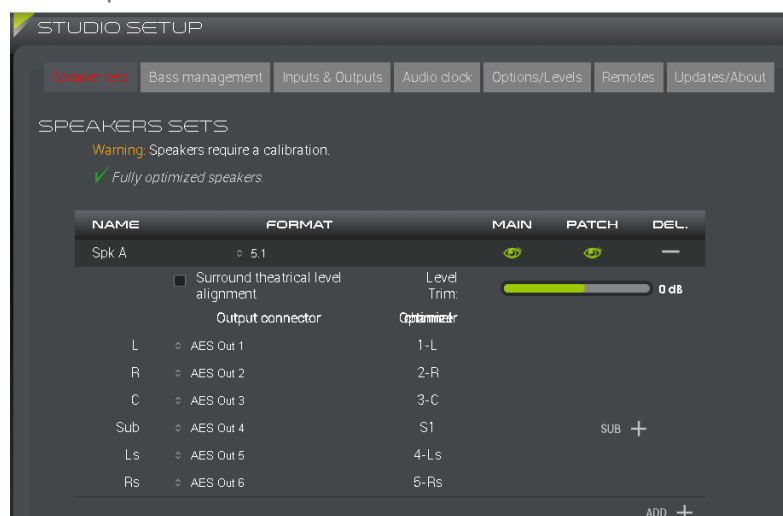
これら一つ一つのアイコンは別々のページを持っています。

5.1 STUDIO SETUP ページを開く



アイコンをクリックして、STUDIO SETUP ページを開きます。

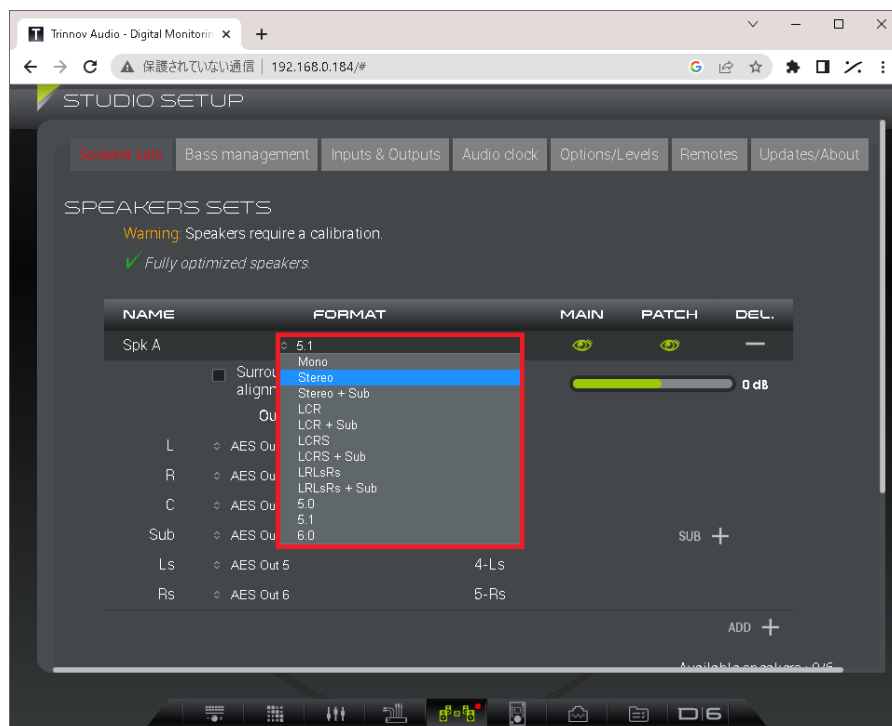
STUDIO SETUP ページでは、スタジオ内にどのようなスピーカー（セット）があり、それらをどの物理出力から出力するか、どのスピーカーにOptimizerを適用する/しないかの設定が行えます。



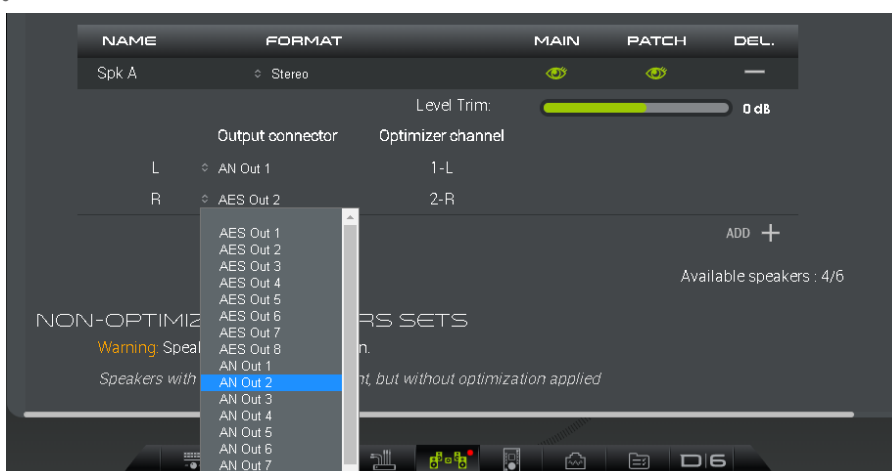
この例では、アナログ出力 1/2 と 3/4 に Optimizer で最適化するスピーカーを、5/6 に最適化しないスピーカーを接続する設定例を紹介しています。

STUDIO SETUP の上の部分にある **SPEAKER SETS** 欄には、既に **Default** の **Preset** に設定された **Speaker Set** が存在します。この設定を実際の作業環境に合うように変更し、出力ポートへのルーティングを行います。

- 1 **FORMAT** の下にあるドロップダウン ボックスをクリックして **Stereo** を選択してください。

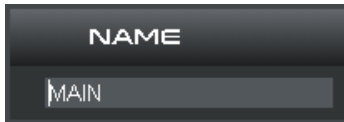


- 2 **Output connector** の下にあるドロップダウン ボックスをクリックして **AN Out 1** と **AN Out 2** を選択してください。



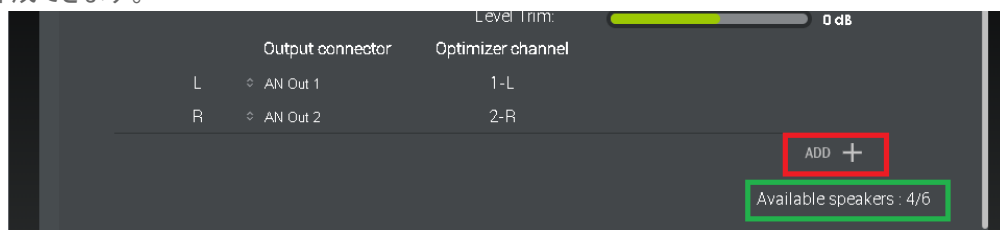
これで XLR出力(9) の **1** と **2** からスピーカーを接続している設定ができました。

- 3 **NAME** の直下にある部分をクリックすると、スピーカーセット名を分かりやすい名前 (**MAIN**など) に書き換えることができます。



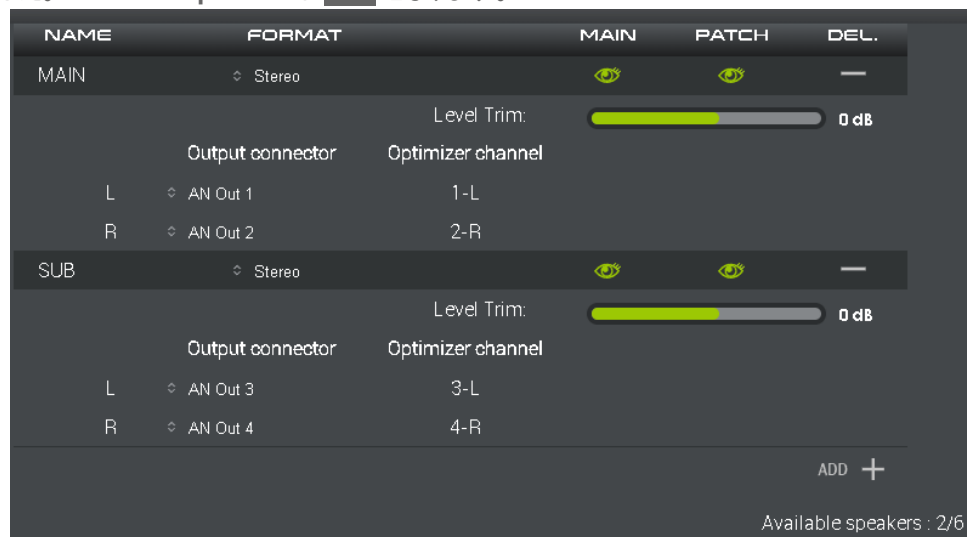
5.2 別のスピーカーセットを加える。

- 4 いま設定した Speaker Set の右下にある **ADD +** (下図緑枠) をクリックすると、2つめのスピーカーセットが作成できます。



その下にある **Available speakers : 4/6** (上図緑枠) は「最適化できるライセンス 6ch のうち、まだ 4ch が使用できる」ことを示しています。

- 5 2組目のスピーカーセットとして “**SUB**” という名前のスピーカーセットを加え、出力に **AN Out 3/4** を割り当てました。**Available speaker** は **2/6** となります。



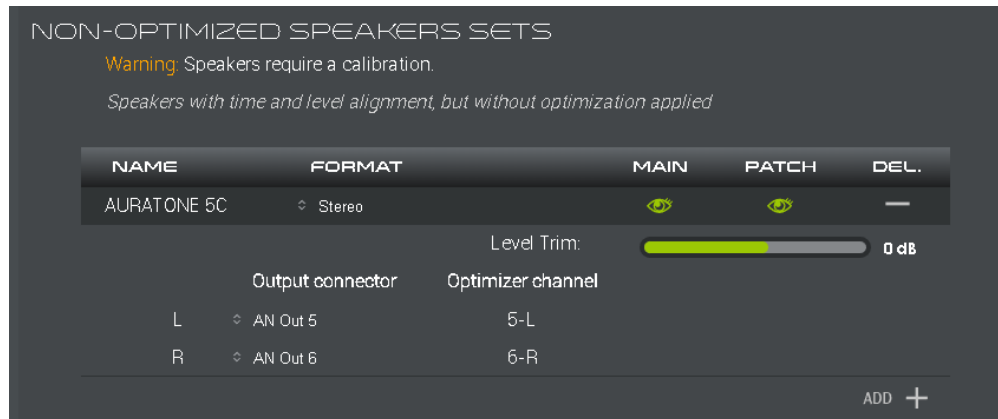
5.3 Optimize しないスピーカーセットを加える。

この設定を行うことで、民生機の確認用モニターなど「Optimizerで最適化する必要のないモニタースピーカー」もDMONIに接続し、DMONのモニターボリュームや **DIM / MUTE** でコントロールすることができます。

- 6 画面を下にスクロールし、**NON-OPTIMIZED SPEAKERS SETS** の欄で **ADD +** をクリックして、スピーカーセットを加えることができます。

“**NON-OPTIMIZED SPEAKERS SETS**” とは「時間調整とレベル調整は行うがフィルターによる最適化は行わない」スピーカーセットの事です。

下の例では“AURATONE 5C”という名称のスピーカーセットを作成し、AN Out 5/6 にルーティングしています。



以上の設定でスタジオ内の全てのスピーカーが設定されたことになります。

*** 注意:**これらの設定を変更すると、**Calibration** を再度行わなければ **Optimizer** は適用されません。

例えば、スピーカーへの出力端子(ルーティング)を変更した場合、再度 **Calibration** を行わないと Optimizer は適用されません。

これで **DMON -> Speaker** の接続の設定が完了しました。

まず、以上の設定を **PRESET に保存** することをお勧めします。

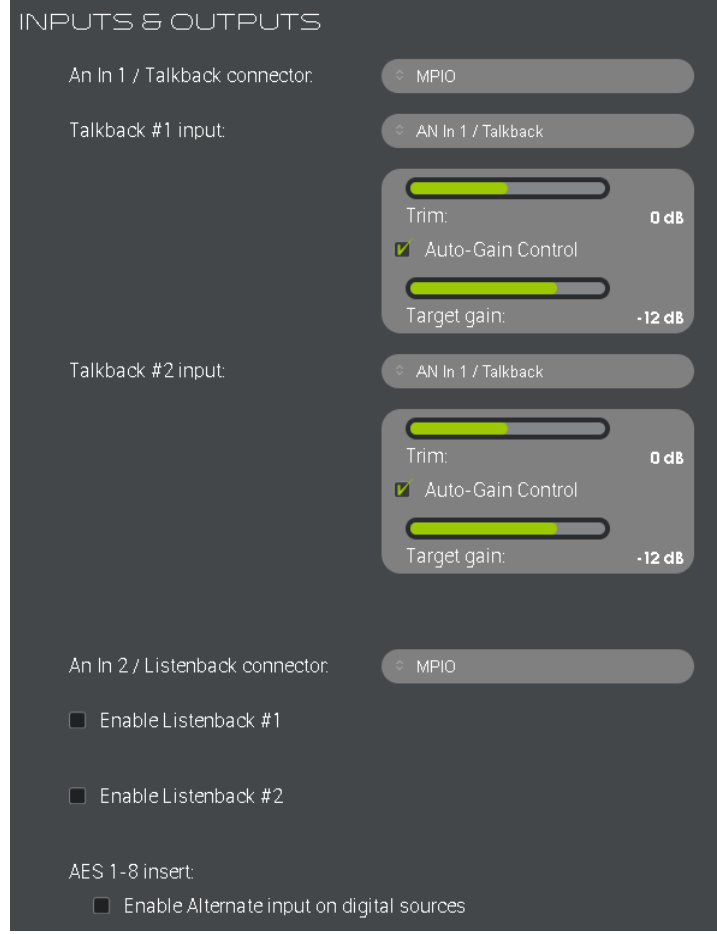
DMONを再起動させると、設定した **Default** の設定を読み込んで 起動します。

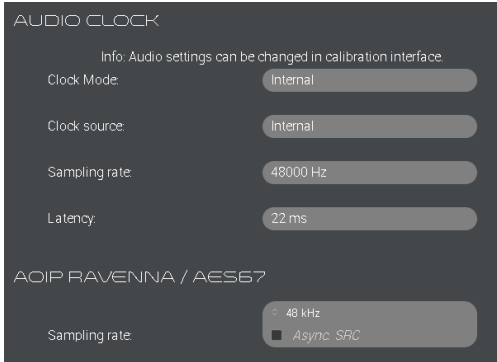
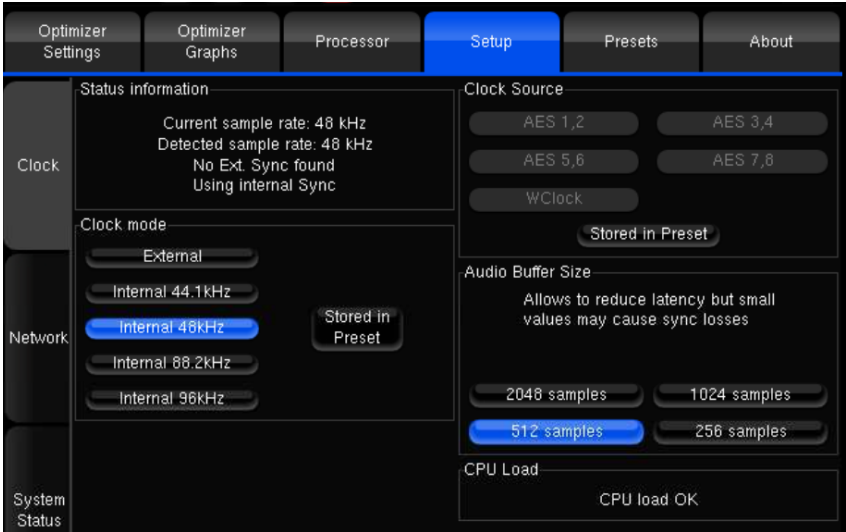
PRESET に保存し、その **PRESET** を **Default** に設定することで、これまでの設定を再現することができます。

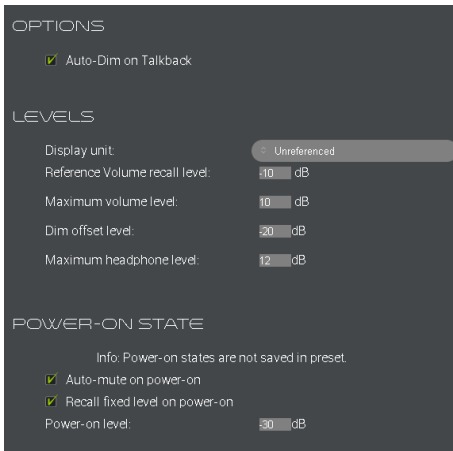
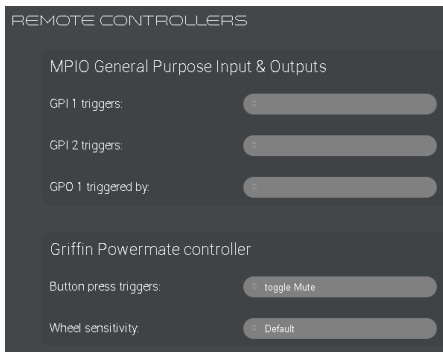
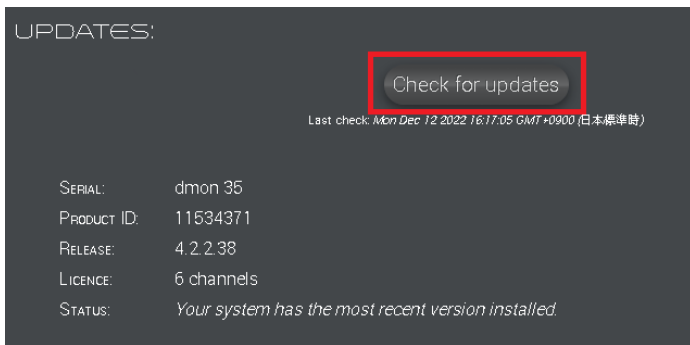
5.4 その他の設定

* 設定を急ぐ場合はこの章を飛ばし、[次の章に進んでください](#)

この章で説明しているその他の設定は、**Optimizer**とは直接関係の薄い設定です。各設定についての詳細は[User Manual](#)をご覧ください。

Bass management	サブウーファーを使用する場合にベースマネージメントについて設定します。詳しくはUser Manualをご覧ください。  The screenshot shows the 'BASS-MANAGEMENT' settings. It includes a checkbox for 'Enable Bass-management' which is currently unchecked. Below it is the 'LFE' section with a checked checkbox for 'Apply +10dB on LFE channel'. At the bottom, there is a slider for 'LFE input filter' set to '120 Hz'.
Inputs & Outputs	トークバックやリススンバック、AES Insert を使用する場合に、これらの入出力を設定します。詳しくはUser Manualをご覧ください。  The screenshot shows the 'INPUTS & OUTPUTS' settings. It includes dropdown menus for 'An In 1 / Talkback connector' (set to 'MPIO') and 'Talkback #1 input' (set to 'AN In 1 / Talkback'). Below these are two identical blocks for 'Talkback #1' and 'Talkback #2' inputs, each with a 'Trim' slider at '0 dB', a checked 'Auto-Gain Control' checkbox, and a 'Target gain' slider at '-12 dB'. Further down are dropdowns for 'An In 2 / Listenback connector' (set to 'MPIO') and checkboxes for 'Enable Listenback #1' and 'Enable Listenback #2', both of which are unchecked. At the bottom, there is an 'AES 1-8 insert' section with a checked checkbox for 'Enable Alternate input on digital sources'. 注意：機器からのリターンにアナログ入力 1/2 を使用したい場合、”An In 1/Talkback

	connetor”と“An In 2/Listenback connector”を“Follow Talkback(default on SubD, MPIO on Talk)”に設定してください。 注意2: アナログ入力 1/2には(Avid iconのために)39Vが出力されています。
Audio clock	このページは表示のみを行っています。  クロックの設定は OPCP の Setup > Clock で行います。AES入出力を使用する場合は設定が必要です。 
Options/Level	レベルに関する様々な設定を行います。詳しくは User Manual をご覧ください。

	
Remotes	外部機器のGPIOの設定を行います。詳しくは User Manualをご覧ください。 
Updates/About	DMONソフトウェアライセンスの確認や、ソフトウェアのアップデートの確認が行えます。 

5.5 Preset への 保存

以上でスタジオのモニターに関する基本的な接続の設定が完了しました。

これらの設定を **Preset** として保存し、**Def(ault)** として設定すると、次回電源を入れた時に現在の設定が呼び出されます。

1. **OPCP** を表示させ、**Preset** のタブをクリックして開いてください。
2. 下図緑枠に適当な名前を入力し、
3. 適当な場所の **Save** をクリックして保存してください。
4. **Def** のラジオボックスをクリックすると、次回起動時に呼び出されます。
* **Def** は 1つの **Preset** しか選択できません。

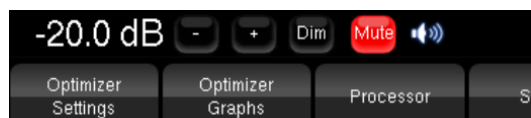


***Tips:** このマニュアルでは、たびたび「Preset への保存操作」を行っています。「Presetへの保存と呼び出し」操作は、間違った設定を行った場合に「新たに行った設定のリセット」としても機能します。設定箇所が非常に多いDMONでは、設定のスピードと効率を上げるために積極的に活用してください。

6. Calibration

6.1 配線と配線チェック

- 1 **DMCP** または **OPCP** で **Mute** を押し、スピーカーを **Mute** して下さい。



- 2 **DMCP** のモニターレベル上にマウスカーソルを置き マウスのホイールを下方方向に回す か マウスを操作してレベルを十分 (-30 ~ -40dB 程度まで) 下げてください。

- 3 **DMCP** 右下にあるスピーカーコントロールを “Noise” にしてください。

- 4 スピーカーの “Mute” を外し、“L” を ON にして、少しずつボリュームを上げていってください。正しく配線されていれば、左側のスピーカーからピンクノイズが聴こえてくるはずです。



- 5 同様に **R** にもノイズを送ってみて、スピーカーへの配線が正しく行われていることを確認してください。

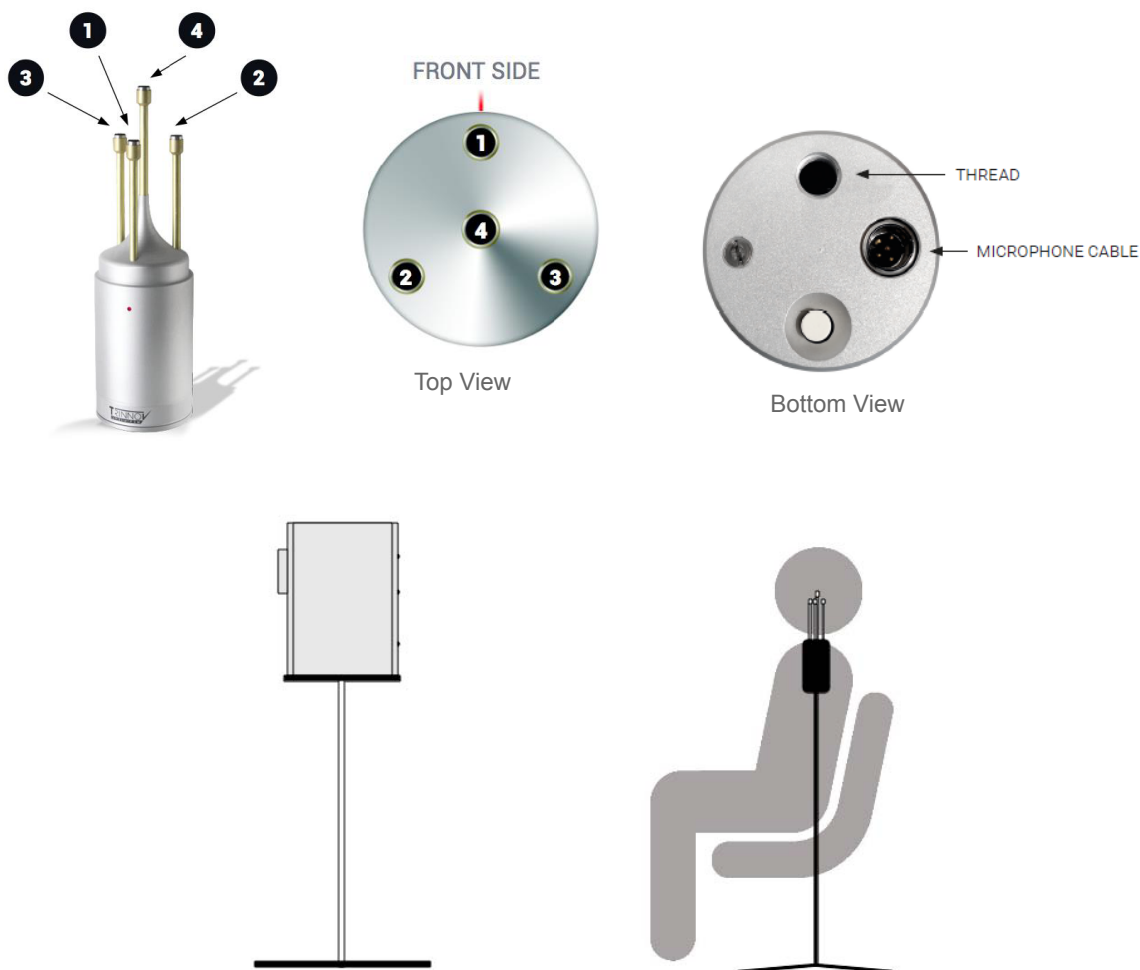
- 6 確認後は、必ず スピーカーを再度 **Mute** してください。

6.2 3Dマイク

- Trinnov 3D マイクは、4つのカプセルを持つ特殊なマイクです。

4つのカプセルには、番号がついています。**赤い電源LED**の真上にあるカプセルが**①**です。そこから反時計回りに**②**, **③**と続き、中心の背が高いカプセルが**④**です。

- マイクはリスニングポイントに置きます。測定中に動かないよう、マイクスタンドに取り付けてください。**マイクが床に対して垂直**になるように設置してください。
- カプセルの**①をスピーカーの方向**に向けてください。この位置が**センター**であることが理想的です。
- カプセルの**②, ③**からスピーカーへの距離が同じになるようにマイクの**ローテーション**を合わせてください。
- カプセルの**④が耳の高さ**となるようにマイクスタンドの**高さ**を合わせてください。



6.3 Calibration

まず、**スピーカーが Mute**されていることを確認してください。

これから3Dマイクを使って **Calibration** を行います。**Mute**がかかっていない場合、**フィードバックが起こ**

り、スピーカーや 耳 を痛める可能性があります。

1	スピーカーが Mute になっていて、レベルは(-20 ~ -30 dB程度)になっていることを確認してください。
2	3Dマイクをリスニングポイントに設置してください。 以下に注意してマイクを配置してください。 3Dマイクの 電源LED をスピーカーに向けてください。 3Dマイクの一番上のカプセル④の高さ が耳の高さと同じになるように設定してください。 3Dマイクが左右のスピーカーの中心に置かれていること。 3Dマイクが床に垂直に立っていること。
3	OPCP の Optimizer Settings タブの Calibration ページを開きます。 
4	右上にある Calibrate ボタンをクリックします。 マイクのスイッチを入れるようダイアログが表示されます。<u>マイクの電源スイッチを入れて</u>、OKをクリックして下さい。
5	まず左のスピーカーから バースト ノイズ が出力されます。 この音がプロセッサに認識されると、自動的にノイズは停止し、次に右スピーカーからノイズが出力されます。 残響の多い部屋では、モニターレベルが大きすぎるとスピーカー位置をプロセッサが判別できない場合があります。その様な場合は、モニターレベルを下げて下さい。

	測定中は部屋の中のを動かさない様にしてください。測定時に人がいるのは構いませんが、測定中は動かないようにしてください。												
6	測定が終了すると下図のダイアログ「Calibration が終了しました。マイクの電源をOFFにして OK をクリックして下さい。全ての位置での Calibration が終了したら “Compute” を行って下さい」というダイアログが表示されます。 Calibration finished Please turn off the microphone and press OK Once all the measures have been calibrated, run "Compute". Ok												
7	<u>マイクの電源を切り</u>、OK をクリックして下さい。通常の操作画面に戻ります。												
8	画面右下にある “Compute” をクリックして下さい。 0.0 dB - + Dim Mute Bypass Home Optimizer Settings Optimizer Graphs Processor Setup Presets Help Meas. name: Measurement 1 Calibrate Runtime Default Microphone... <table><thead><tr><th>Measurement name</th><th>Calibrated</th><th>Weight</th><th>Ref</th></tr></thead><tbody><tr><td>1: Measurement 1</td><td>Yes</td><td>1</td><td>-1</td></tr><tr><td>2: Measurement 2</td><td>Partial</td><td>1</td><td>-1</td></tr></tbody></table> Settings Positions Calibration Delete Add Changes saved Compute	Measurement name	Calibrated	Weight	Ref	1: Measurement 1	Yes	1	-1	2: Measurement 2	Partial	1	-1
Measurement name	Calibrated	Weight	Ref										
1: Measurement 1	Yes	1	-1										
2: Measurement 2	Partial	1	-1										
9	OPCP の Mute ボタン横に計算を行っていることを示す歯車のアイコン  が表示されます。この間、プロセッサーから音を出すことはできません。												
10	フィルター計算が終了すると、「計算が終了しました。Muteされていることに注意してください」という意味のダイアログが表示されます。												

- | | |
|----|--|
| 11 | 前述の手順 で Preset に保存してください。 |
|----|--|

以上の操作で スピーカーの最適化が終了し、**OPCP**で行う作業のほとんどが終了しました。

これで **DMON -> Speaker** の 全ての設定が終了しました。

[次の章では](#) **DAW / Miing Console -> DMON** 間の設定を行います。

7. ソースの設定

これまでの設定と操作で、プロセッサからスピーカーへの設定と最適化は完了しました。
この章では、コンソール(DAW)からプロセッサまでの設定を **DMCP** で行います。

1

DMCP画面下にあるアイコン



をクリックし、SESSION SETTINGS を開きます。

2

SOURCES 欄にあるソースを確認してください。これらは ミックスしてヘッドフォン送りなどに使用できるプロセッサへの入力です。

必要ない SOURCE は、右にある “-” (下図赤枠) をクリックして消去してください。

SOURCES	LEVEL	FORMAT	AOIP	MAIN	PATCH	DEL.
Main	0 dB	Stereo				
Alternate St	0 dB	Stereo				-
Cue #1	0 dB	Stereo				-
Cue #2	0 dB	Stereo				-
Cue #3	0 dB	Stereo				-
Cue #4	0 dB	Stereo				-

ADD +

3

各 SOURCE の 名前の欄をクリックすると名称を変更できます。

FORMAT をドロップダウンメニューで選択してください。

この例では Main を DAW に、Alternate St を Alt Mix に名前を変更し、他を消去しています。

SOURCES	LEVEL	FORMAT	AOIP	MAIN	PATCH	DEL.
DAW	0 dB	Stereo				
Alt Mix	0 dB	Stereo				-

ADD +

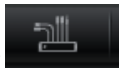
* Alt Mix は、これまでのミックスと比較するための 別バージョンの Mix という意味です。DAW内部で作成し、DMONIに送ってください。

4

MIX BUSSES や OUTPUTS は、とりあえずこのままにしておいて結構です。ヘッドフォンへのCUE送りに設定したいなど、詳しくは [User Manual](#) をご覧ください。

5

DMCP画面下部にあるアイコン



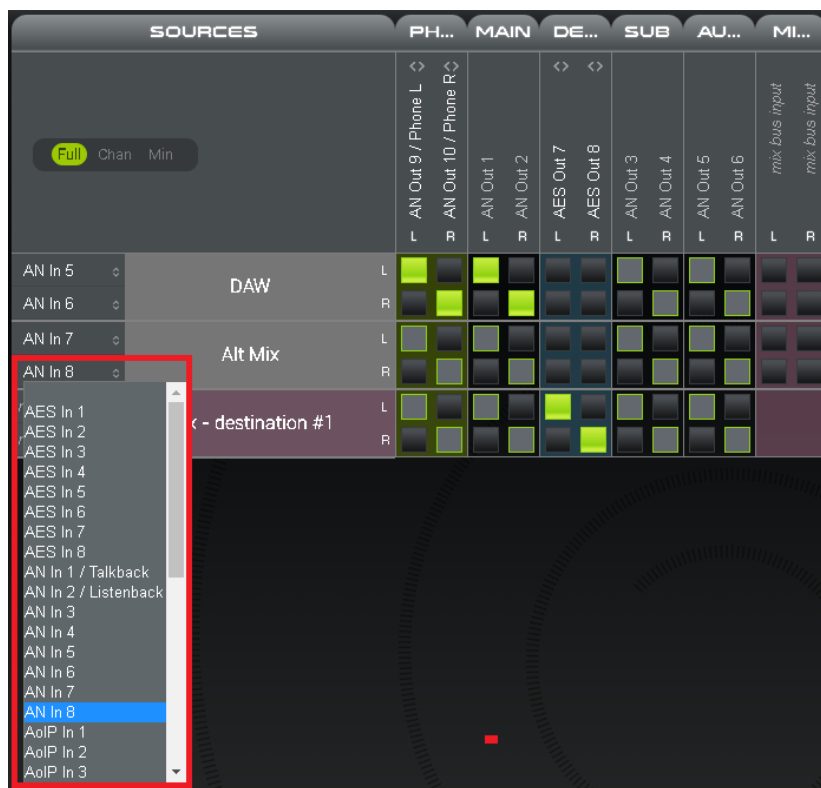
をクリックし、SESSION ROUTING を開いてください。

6

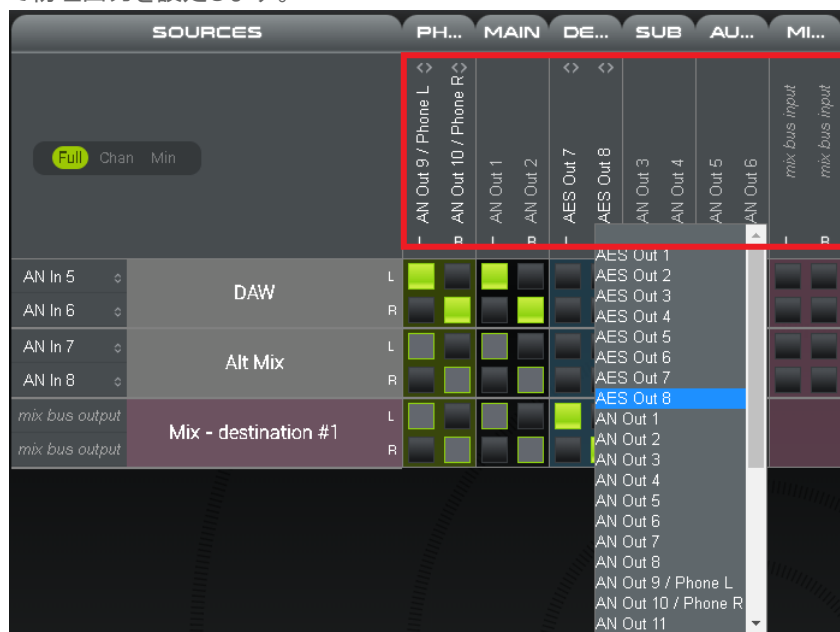
最も左にあるドロップダウン メニューで、各SOURCEの物理入力を設定してください。

この例では、DAWを AN In 5/6 (アナログ入力 5/6 ch) に、Alt Mix を AN In 7/8 に設定しています。

この設定の通りに、DMONの Analog Input (8) 5/6, 7/8 に、それぞれの出力を接続してください。



- 7 **MIX BUSSES** や **OUTPUTS** の出力やヘッドフォン送りなどを設定するには、同じくこのページの次の図の部分で物理出力を設定します。



- 8 **DMCP**画面下部にあるアイコン  をクリックして **CONTROLLER** を開くと、これまでの設定に

より、**SOURCE** と **SPEAKERS** が配置されています。

これにより、聴きたい SOURCE と 聴きたい SPEAKER を選んでモニターすることができるようになっています。



9 結果を[前章](#)に従って **Preset** に保存してください。

プロセッサからスピーカーへの設定と違い、ソースからプロセッサへの設定はセッションにより度々変わる場合が考えられます(プロセッサの入力をアナログ入力をAES入力に変更するなど)。そのためこれらは **Preset** でではなく **Session** に保存しておくことが可能です。

Session は、Presetで設定した設定を変更した後のメモの様に使用できます。

詳しくは [User Manual](#) でご確認くださいですが、

- **Preset** は、DMONの全ての設定を保存する
- **Session** は、DMONの **DMCP** の設定を保存する

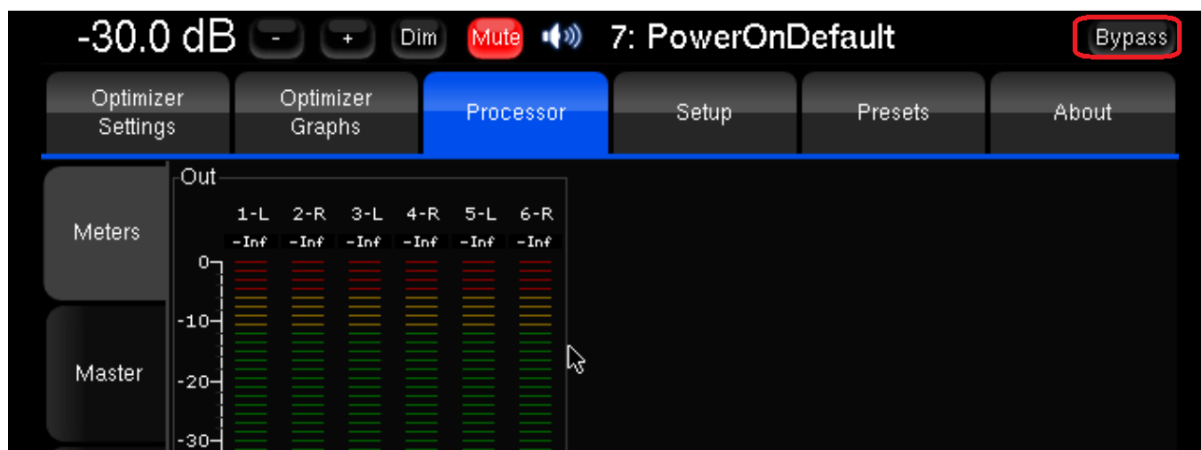
とお考え下さい。

[前章](#)で初回の **Calibration** を行い、その結果を **Compute** して **Preset** を保存しました。

この章では、その **Preset** に対して **Source** を設定しましたので、ここでは **Preset** でなく **Session** に保存することも可能ですが、**Preset** で保存し Default に設定しておく、次回起動時に現在の設定が全てそのまま再現されます。

8. 試聴

- 試聴時の音量やソースの切り替え、スピーカーの切り替えは **DMCP** で行います。
- **Optimizer** の効果を確認するには **OPCP** の右上隅にある **Bypass** ボタンをクリックしてください。
Bypass が押されていると、**Optimizer** のかかっていない(遅延のない)原音を聴くことができます。



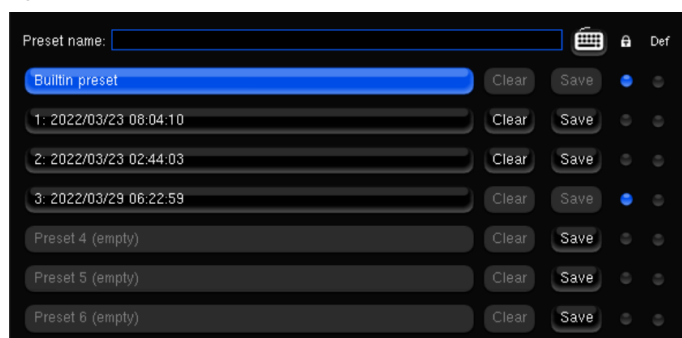
9. Preset への保存

Preset は、入出力の物理ポートの設定や **OPCP** の **Processor** タブで設定した設定などをそのまま保存して再現します。逆に、これまで行ってきた設定を **Preset** に保存せずにユニットの電源を落とすと、再現されることはありません。

OPCP の **Preset** タブを開き、好きな場所(1-29)の右側にある **Save** ボタンをクリックして **Preset** として保存してください。

電源を入れた直後に再現させたい **Preset** は、**Def** のラジオボックスにチェックを入れて、デフォルトに設定してください。

Optimizer データを含んだこの **Preset** は、間違えて消去しないように 鍵マーク のラジオボックスにチェックを入れて ロックしてください。



10. 電源を落とす

Trinnovプロセッサの アナログ出力 にはリレーが装備されており、ユニットの電源のON/OFFによるノイズを出すことはありませんが、AES出力を利用する場合は外部DACでノイズが起こる可能性があります。そのため、モニターシステム(スピーカー)の電源を切った後にプロセッサの電源を切る通常のシーケンスを守ってください。

プロセッサの電源を落とすには、フロントパネルの電源スイッチ(A)を OFF の位置にしてください(バックパネルのメインスイッチは、OFFにする必要がありません。)

OFFになると、プロセッサは直ちにデータを安全な記憶領域に退避させる「終了シーケンス」が開始されます。

システムが「終了シーケンス」を行っている間、DMONIに直接接続されている **OPCP** のモニター画面には “**Shutdown...**” とメッセージが表示されます。

このメッセージが表示されている間は 配電盤などでACを落としたり、背面パネルの電源スイッチをOFFにしないで下さい。

11. FAQ

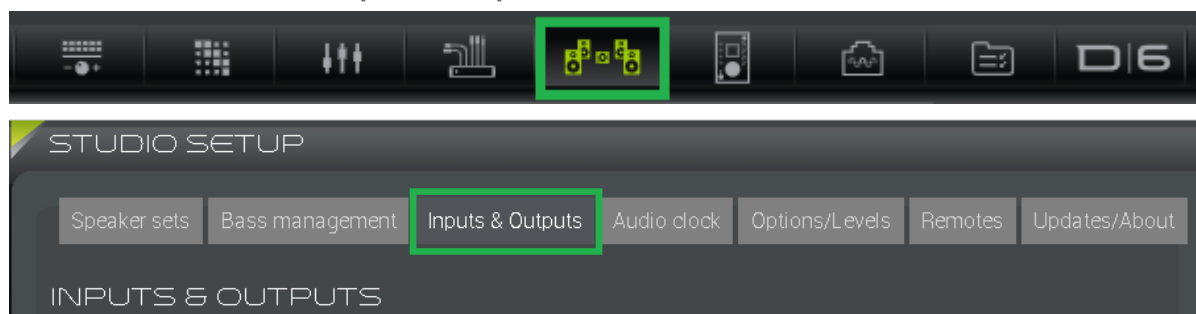
11.1 Analog Input 1/2 を Source に使用したい

DMON の アナログ入力 は、Talkbackマイク や Listenbackマイク に使用するように想定されています。また、これらには 36v(AVID ICON の仕様)が出力されていますので、アナログソースに使用することは推奨しておりません。

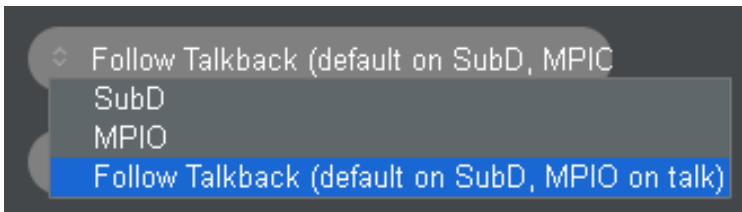
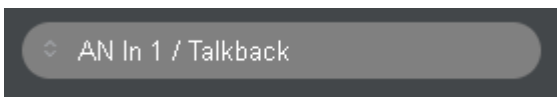
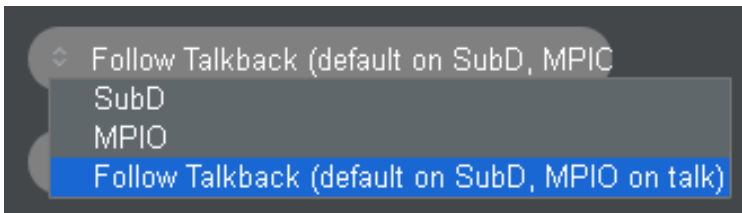
しかし、接続するアナログ機器の出力がトランス仕様のバランス出力などであれば、この入力も使用することができます。

ただし、前述の理由により、以下の設定が必要です。

1. **STUDIO SETUP > Inputs & Outputs** を開いてください。



2. 下記の様に設定を変更してください。

An In 1 / Talkback connector	
Talkback #1 input	 MPIO の Mic 1 を Talkback に使用する場合は、AN In 1 / Talkback に設定してください。
An In 2 / Listenback connector	

Listenback #1 input

AN In 2 / Listenback

MPIO の Mic 2 を Listenback に使用する場合は、**AN In 2 / Listenback** に設定してください。

An In 1 / Talkback connector と **An In 2 / Listenback connector** の “**SubD**” と “**MPIO**” の各モードは、そのコネクタに接続された入力をそれぞれ Talk と Listen の Micソースに設定します。

モードを “**Follow Talkback (default on SubD, MPIO on talk)**” に設定すると、Talk(或いは Listen)が押されたときのみ、**MPIO** の **Mic 1/2** が Talk と Listen 用のマイク入力とし、SubD の 1/2 入力は他のアナログ入力と同様に動作します。